

事業所名

いっぽのにじ【放課後等デイサービス】

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

7 日

法人（事業所）理念		【ソダツバヒカリ】・子どもも、大人も、地域も、みんなで関わって、みんなで考えて、みんなで育ち合う。 3つの育つ場（あそぶ場、まなぶ場、いのちの場）	
支援方針		これからの社会で過ごすため、自分で選び、決定し、相手に理解してもらえる様に説明する「思考力・判断力・表現力」を、遊びや友だちとの関わり合いの中で、身に付ける。 そのための基礎となる「自己肯定感」を高めるため、子ども達の「挑戦したい!」「面白そう!」といった熱意を引き出す活動・支援を行い、子ども達の「生きる力」を高めていく。	
営業時間		営業時間 8:30 ~ 18:30 サービス提供時間 13:30 ~ 17:30 ※休業日は 9:00~17:30	送迎実施の有無 あり なし ※自宅への送迎は行っていません
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	・ミーティング時などに、荷物チェックを子どもたち自身で行い、整理整頓をする習慣をつける。 ・「来たときよりも美しく」を心がける様に声掛けを行い、自主的に環境を整える意識を持つように支援する。 ・日替わりのリーダーを決め、自分たちで考えて活動を行っていく経験を積む。 ・ホワイトボードにその日の活動を提示し、見通しを持って過ごせるように支援する。	
	運動・感覚	・ハンモックブランコ・吊り輪・スライム・スクイーズなど触覚・前庭覚・固有感覚など、様々な感覚を刺激する遊びに触れる環境を作る。 ・ネイチャーゲーム・生き物探し・たき火など恵まれた環境で自然遊びを行い、楽しみながら様々な感覚を刺激する。 ・ドッジボール・キックベース・サッカー・バスケットなどのスポーツを思い切り楽しめる環境を作り、子どもたちの成長に必要な運動を遊びの中に取り入れる。	
	認知・行動	・怒りの数値化や落ち着く為の方法（腹式呼吸・触覚刺激・発散運動）など、感情をコントロールする方法を学ぶ時間を設ける。 ・自分の行動を客観視できるようにイラストで視覚提示するなど、その子が自己認知しやすいように一人一人の状態・特性に合わせた支援を行う。 ・適応行動が見られた時にはたくさん誉め、子どもの良い行動を強化する声掛けを行う。 ・オセロ・将棋・マンカラなど、数の概念や視覚認知能力を高められる遊びができる環境を整える。 ・工作・絵画・折り紙など創作活動を行い、創造性を高めたり自己表現する力を養う。	
	言語コミュニケーション	・ダブル・ポケカ・レシピなどのカード遊びを子どもたち同士で楽しめる環境を整え、言葉で表出したりルールを守ったりすることを遊びの中で身に付けられることを目指す。 ・4～5人の小集団で、友だちの意見を聞いたり自分の意見を伝えるといった双方の意見をくみ取り、合意形成を図るグループワークを行う。 ・活動後の感想を発表する、友達の発表を聞くといい、気持ちを表出したり受け入れたりする機会を設ける。	
	人間関係社会性	・園外活動を定期的に行い、社会のルールを身に付ける支援を行う。 ・「こんなときどうする?」といった場面のロールプレイを行い、「許可を得る」「指示に従う」「助けを求める」などの基本的なスキルを身に付けられることを目指す。 ・ごっこ遊び・秘密基地作りなど、子ども達自身が遊びの中で友だちと役割を分担したり合意形成を行える様に、環境整備や支援を行う。	
家族支援		・迎え時に事業所での様子を具体的に伝える。 ・状況に応じて自宅での子どもの様子の情報共有を行う。 ・必要に応じて面談の時間を設け、困り感に対して一緒に考え対応する。 ・子どもの関わり方を学ぶ機会「学び」（ペアレントトレーニング）を定期的に作り、参加を促す。	移行支援 ・同法人の学童や公園等に出掛け、地域の様々な年齢の子どもたちと交流する機会を作り、事業所以外の子ども達と接する経験を多く積めるような場面設定を行う。 ・近隣のカフェで活動を行ったり、プレイパークなど、地域のイベントに参加し、幅広い年齢の人々と交流する機会を作る。 ・具体的な移行先がある場合、情報共有・協力を行い、移行先でも安心して生活できるように働きかける。
地域支援・地域連携		・各関係機関からの情報に基づいて共通理解を図り、各々での役割を分担し、円滑な支援を提供する。	職員の質の向上 ・定期的に職員研修を実施する。 ・支援前後に情報の共有・支援の振り返りを行う。 ・月に一回のミーティングで情報共有・事例検討などを職員間で密に行う。
主な行事等		お花見・夏祭り・里山での自然遊び・買い物体験・すもう大会・焚き火でおやつ・ハロウィン・クリスマス会・避難訓練・親子通園・児発の子どもたちとの交流など	